

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

◎ 「明日も行きたいと思う学校」をめざす。 ◎ 「地域で豊かに生きていく力の育成」をめざす。 本校における豊かに生きていく力とは、1. 豊かなところ 2. 楽しむ力 3. 体力 4. コミュニケーション力 とする。
--

2 中期的目標

1 安全安心な学校生活を送る体制をつくる。 （1）教職員全員が人権意識を高め、児童生徒の人権を尊重する。 （2）児童生徒の生命・健康を守る。 ＊危機管理体制を充実させ、緊急時における児童生徒の安心安全を確保し、教育活動の継続を図る。 （3）教育相談体制の充実を図る。 （4）教職員の多様な働き方への支援など、働き方改革を進める。 2 特別支援教育のセンター的機能を発揮し、開かれた学校づくりを推進する。 （1）地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒支援の充実を図る。 （2）相互に尊重する気持ちを育むため交流及び共同学習を計画的に実施する。 （3）ホームページ等の活用・充実を図る。 3 障がいの多様化に応じた教育活動の展開ができるよう教職員の資質向上を図る。 ＊すべての教職員が互いの同僚性を認め、資質を高めあう教育を実践する。 （1）知的障がい支援学校として計画的で効果的な授業力向上の研修・研究に取り組む。 （2）教職員一人一人が学校課題に応じた校内外の研修を積極的に受講し、特別支援教育や業務遂行に関する専門性を向上させる。 （3）ICT 機器の活用やタブレット端末を使用して、児童生徒が主体的に取り組める授業を実施する。 （4）関係外部機関との連携を密にし、児童生徒への必要な支援を充実させる。 4 小学部中学部高等部の継続性のある系統的なキャリア教育を実践する。 ＊学校教育自己診断 教職員アンケートにおいてR 7年度まで肯定的意見 80%以上の維持をめざす。（R 3 75% R 4 83% R 5 79%） （1）小学部中学部高等部 12 年間をつなぐキャリア教育の実現を図る。 （2）児童生徒が自己肯定感を高め、地域社会で豊かに生きていく力を育てる。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
学校教育自己診断の結果分析と課題について 1. 分析 <保護者> 回収率 70.1%（前年度 72.6%） ・全 26 項目中 19 項目が、肯定的回答 85%以上の回答であった。昨年度は否定的回答 20%で設定をして 0 項目だったため、今年度は 15%に引き下げたが 0 項目であった。 ・昨年度の肯定的回答 80%以下は 4 項目あったが、今年度の肯定的回答 80%以下は 1 項目と改善傾向にあり、全体としては概ね高評価を得た。 ・項目 26（学校のホームページ視聴）では、肯定的回答 85%以上には至らなかったが、昨年度から肯定的回答が 29%アップしている。 <児童生徒> 回収率 69.2%（前年度 69.6%） ・全 23 項目中 13 項目が、肯定的回答 80%以上の回答であった。否定的	第1回 令和6年5月30日(木) 10:00～11:00 【議題】 ＊ 令和6年度学校経営計画について ＊ 令和5年度進路状況について ＊ 令和6年度教科書について 【委員からのご意見】 『学校経営計画について』 ・作品展等で学校間の交流実施。学校間の交流は、大変有意義。 ・ICT 活用について、支援学校の ICT 機器の使い方はどのようにしているか。 ⇒個々にあった学習アプリを用いての学習や視覚的な支援のために活用している。 ・支援学校のアレルギー対応について詳細を聞きたい。 ⇒担任、栄養教諭、養護教諭が児童生徒情報を共有。毎朝、職員朝礼で確認。配給のお盆の色を変えて名札を貼って対応。献立表ダブル・トリプルチェックで確認。 ・防災について、発災時の避難場所について保護者の心配の声が多い。

回答 20%以上の項目は4項目（昨年度4項目）で、前年より項目を6項目増やしたが前年度と同じであった。 ・昨年度より保護者アンケートとともに保護者（家庭）へ配付しての回答と変更したため、回収率は減少したままだが、結果としては児童生徒・保護者の現状が現れていると考えられる。 ・否定的回答の3項目（項目9 校長先生の話がわかりやすい・10 仕事に関する授業がある・16 学校のホームページを見る）は、前年と同項目でいずれも増加傾向にあるため、継続的な課題である。項目19（将来の夢や希望がある）は今年度より新たに増えた項目であるが、否定的回答が33%となっているため、新たな課題ととらえる。 ・交流に関する項目（項目15）は、前年度は否定的回答が24%から今年度は10%まで減少している。また、前年比で5%以上アップした項目が前年度1項目であったが、今年度は11項目と大きく増加しており、全体としては改善傾向にある。 <教職員> 回収率100%（前年度100%） ・全39項目中21項目が、肯定的回答90%以上の回答であった。（前年度7項目）否定的回答20%以上の項目が3項目で前年度の否定的回答20%以上は16項目だったため、大幅に改善傾向にある。 ・今年度重点課題としていた防災教育に関する項目（項目14）は肯定的回答が18%上昇しており、重点課題として分掌で取り組まれたことが結果として表れている。今回は肯定的回答84%であったので、肯定的回答90%以上をめざして次年度以降も定着が望まれる。 ・学校運営に関する項目（項目17）は組織としての取り組みが、伝達講習に関する項目（項目28）と初任者に関する項目（項目29）ともに今年度の具体的な取り組みの結果により肯定的回答が20%以上アップとして表れている。 ・前年比で10%以上アップした項目が前年度6項目であったが、今年度は22項目と大きく増加しており、全体としては大きく改善傾向にある。 ・否定的回答20%以上（項目17 学校運営に教職員の意見が反映・18 教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担・19 各分掌や各学部、学年間の連携が円滑）に関してはいずれも10%以上改善傾向にあるが、依然として継続的な課題がある。 ・ヒヤリハットに関する項目（項目13）のみが、肯定的回答が前年度より5%ダウンと減少傾向にある。 2. 次年度の重点課題 今年度の学校教育自己診断の結果分析を受け、以下の2点とする。 ◎ 『ヒヤリハット報告が共有され、学校の諸活動において安全指導を徹底する。』 ◎ 『各分掌や各学部、学年間の連携が円滑に行われ、うまく機能している。』 以上	⇒発災時が、本校で一時避難する対応は確認。その後の想定には至っていない。 ・今年度はHPがまめに更新、プリント類も掲載、子どもたちの様子がわかって良い。特に愛着障がいについて専門性を高めてほしい。 ⇒今年度の夏季公開講座で愛着障がいについて研修をする予定。 ・地域社会で豊かに生きていく力をはぐくむため、学校は具体的にどうしていくのか。 ⇒地域と合同の防災訓練実施や自転車整備等で関りを深めていく。 ・学校の取り組みで保護者に伝わっていないこともあり、工夫が必要。 以上、計画は確認された。 『進路状況について』 ・進路未定者に、基幹相談支援センターを紹介してもらえれば協力できる。活用を。 第2回 令和6年11月27日(水) 10:00～11:00 【議題】 ＊ 令和6年度 学校経営計画及び学校評価（進捗状況） ＊ 本校における ICT 活用分野の様々な取組に係る視察受入れ状況について（報告） 【委員からのご意見】 ・居住地校交流は本当に良かった。お互い、刺激になったりと充実した内容であった。 ・初任者対象の研修のネーミングが良い。若手教員の反応、変化を聞かせてほしい。 ⇒自立活動への学び、専門性の向上につながった意見が出ている。 ・HPの毎日投稿を見ている。子どもの様子、泊行事などはタイムリーがとてもよい。 ・不審者想定 of 防犯訓練の課題とは、具体的にどのような課題であったか。 ⇒不審者想定訓練では、マニュアル通りにはいかない部分が多くあった。 ・池田小学校の事件以降、危機感が少し薄れてきている。訓練の積み重ねが大事。 ・卒業した生徒の離職率、自転車の取り組みは、その対策にもなっているように思う。 ⇒自転車整備では納品時の区役所職員とのやり取りで、作業が役立っていることを実感させている。今年度は、区役所へ出向いて周辺清掃と自転車の整備を実施。 ・計画通りに実施されており、安心している。生徒に対する性教育、SNS 教育を。道徳の指導や主権者教育、お金の使い方などの指導等、学校での取り組みを聞きたい。 ⇒性に関する指導は小中高と系統立てて実施。外部講師を招いて SNS の指導予定。お金の学習は、中学部で信用金庫による講義。主権者教育は区役所職員による出張講座 ・キャリア教育では、生徒の卒業後を視野に学校としての取り組みを聞きたい。 ⇒卒業後3年間は、進路先にアフターフォロー実施。 ・数値目標に対して取り組み、評価をされているのがわかった。数値化は大事。 令和6年度学校経営計画について（進捗状況報告）、委員全員で確認。 第3回 令和7年2月14日（金）10:00～11:00 【議題】 ＊ 令和6年度 学校経営計画 達成状況について ＊ 令和7年度 学校経営計画 めざす学校像及び中期的目標について ＊ 令和6年度 学校教育自己診断結果と分析について 【委員からのご意見】 ・保護者のニーズは、高等部の卒業後の進路。学校から提案もお願いしたい。 ⇒卒業後の選択肢は増えている。生徒のニーズに合った進路を提案している。 ・職業コースのカリキュラムについて具体的な案があれば知りたい。 ⇒思斉セールスポイント、特徴はこれです。というものを考案したい。 ・外部連携の具体は？不登校への対応は？ ⇒区の子育て支援室、相談支援事業所との連携強化で、課題の検討や解決、福祉サービスの活用へ。不登校も、児童生徒及び家庭の支援を行うことで改善へ。 ◆令和7年度学校経営計画中期的目標について、委員全員の承認を受ける。 以上
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 安全 安心な学校生活を送る体制をつくる。	(1) 教職員全員が人権意識を高め、児童生徒の人権を尊重する。	(1) ハラスメント・体罰・不適切な指導の防止などの教職員研修を実施する。 令和5年改訂したセキュリティポリシー実施手順を遵守し、情報(特に個人情報)の管理を行う。	(1) 教職員全員参加(悉皆)での人権関係研修を年間3回は実施する。[3回]	(1) 人権関係研修を6月、8月、3月に辞した。(○)
	(2) 児童生徒の生命・健康を守る。	(2) 校内のヒヤリハット報告を職員朝礼等で行い、教職員で共有する。	個人情報 の漏洩や誤配付・紛失等の件数をゼロにする。[2件]	9月から開始した個人情報配付に関する新ルールは定着してきている。校務支援システム変更に伴うセキュリティポリシーの改訂に関して、次年度からの施行に向けて作業中である。(○)
		不審者対応を想定した防犯研修を実施する。	年1回実施する。[新規]	(2) 第2期 12 月までのヒヤリハットを集計し、場所や時間帯、原因などを分析した結果を職員会議で報告。今回の報告件数は 34 件。集計・分析は第3期も実施予定である。(○)
		大規模災害、緊急時を想定し保護者引き渡し訓練を実施する。	年1回実施する。[1回]	授業時間中に不審者侵入を想定した実践訓練を5月に実施し、11 月に警察の協力のもと実践訓練を実施した。(◎)
		大規模災害時初期対応マニュアルを活用し、地域と協働して防災訓練を実施する。	年1回実施する。[1回]	7月に実施した。(○)
		食物アレルギー事故を防止する。	毎朝の学部連絡会で、食物アレルギーのある児童生徒の給食を確認する。	地域と連携した防災会議を年3回実施。12 月に地域と児童生徒の合同訓練を実施した。(◎)
	(3) 教育相談体制の充実を図る。	食育学習を充実させる。	教職員全体研修を実施し、アレルギー事故を防止する。[0件]	食物アレルギーのある児童生徒のクラス担任は挙手をし、学年や学部を含めて確認した。(○)
		(3) 教員の教育相談対応力を向上させる。	給食委員会活動等を通して、児童生徒が参加できる取り組みを計画する。	教職員への全体研修を実施し、食物アレルギー対応の流れについて共有と確認を行った。(○)
		(4) 週1回(毎週水曜日を定時退庁日)、ノー会議ディを設定し、時間外労働の削減につなげる。	(3) 教員を対象にした外部講師による研修を実施する。[1回]	月1回の給食委員会を実施し、食育に関する活動目標や取り組みの発表を全校集会で行った。(○)
		デジタルサイネージ(職員室の4台の大型ディスプレイ)を活用し、教員が自分のタイミングで必要な情報を迅速に得ることができるよう、発信する。	(4) 毎週水曜日に全体会議・全体研修を設定しないように月中行事を調整する。全体研修については、可能なものは長期休業中に設定し、稼業中はゆとりある研修計画を行う。	(3) 子どもサポート室(首席・部主事・学年主任・支援室長)開設に向けて、外部講師による研修を実施した。(○)
	(4) 教職員の多様な働き方の支援など、働き方改革を進める。	デジタルサイネージ(職員室の4台の大型ディスプレイ)を活用し、教員が自分のタイミングで必要な情報を迅速に得ることができるよう、発信する。	(4) 毎週水曜日に全体会議・全体研修を設定しないように月中行事を調整する。全体研修については、可能なものは長期休業中に設定し、稼業中はゆとりある研修計画を行う。	(4) 毎週水曜日には定時退庁日を設定し、全体会議・全校研修を設定していない。やむを得ない事情で水曜日に実施せざるを得ない場合は、木曜日に「定時退 庁日」をずらし、必ず毎週1回は全体会議・研修のない日を設定している。職員会議を書面開催とし、会議のない日を増やすことができている。夏季・冬季休業を利用したゆとりある研修計画ができた。(○)
		全教員がタブレット端末を活用し、業務改革・業務削減を図る。(プロジェクトチームを中心に、電気通信事業者と連携)	必要な連絡事項等を随時発信し、新たな活用についてもアイデアを募り、実行する。	職員朝礼資料の提示だけでなく、研修案内や、至急の連絡、周知、行事の振り返り写真提示など幅広く活用している。情報の取得だけでなく、コミュニケーションの1つとしても機能している。(○)
			予定の共有化、会議等でのタブレット端末の活用(ペーパーレス)、クラウドドライブサービス、チャット機能の活用を更に進める。	教員全員に業務用タブレット端末が配られたことで全ての会議をペーパーレスで実施できている。また全教職員や分掌、各係や学年などのチャットを活用し、細かな連絡が密にできるようになった。(○)

府立思斉支援学校

2 特別支援教育のセンター的機能を発揮し開かれた学校づくりを推進する。	(1) 地域支援の充実を図る。 (2) 近隣校や居住地校との交流活動を実施する。 (3) ホームページ等の活用・充実を図る。	(1) 研究部と支援室で連携し、夏季休業中に「公開講座」を開催する。 リーディングスタッフを中心に、支援室として地域支援に対応する。 (2) 各学部で学校間交流を実施する。 小中学部の希望者に居住地校交流を実施する。 (3) ホームページの内容の充実を図る。 ミマモルメの実用的な活用を図る。	(1) 公開講座を2講座開催する。[2講座] 相談実施校アンケートの支援の有効性を問う質問に対して肯定的意見 90%以上を維持する。[100%] (2) 小学部1校、中学部1校、高等部2校との学校間交流を1回以上実施する。 [小学部3回、中学部2回、高等部5回] 希望者に居住地交流を実施する。 [小学部8件、中学部9件] (3) ホームページ、ブログの編集権限をさらに広げ、内容の充実を図る。 全児童生徒家庭の登録を促す。[97.4%] 「児童生徒・教員の欠席連絡」、「保護者への情報発信・配付プリント等」で、活用の充実を図る。	(1) 夏季休業中に2講座(研究部1講座、支援室1講座)開催した。地域の学校から 28 名、府内支援学校から 10 名、また、今年度は高等学校より8名の参加があった。(○) 相談実施(保育園、幼稚園、小学校、中学校)は 16 件で、相談実施校アンケートの結果、肯定的意見は 100%であった。(○) (2) 小学部は各学年ごとに近隣小学校との交流を 10 月に実施した。中学部は、作品展見学や思斉祭への招待など計4回、高等部は、体育祭、作品展見学など6回実施した。(◎) 居住地校交流は、小学部6件、中学部 13 件の希望があり、10 月より順次実施している。(○) (3) 「ほぼ日刊思斉ニュース」では更に充実させるため、10 月から編集権限を広げたことで、より件数が増えた。1月時点で 538 件を掲載している。(◎) 331 名中 330 名登録[99.7%]未登録者1名。(○) ・児童生徒、教員共に欠席連絡での活用は定着した。保護者への情報発信においても活用が進んできている。(○)
3 障がいのある多様な児童生徒の教育活動の展開ができるよう教職員の資質向上を図る。	(1) 計画的で効果的な授業力向上の研修・研究に取り組む (2) 専門性向上のため外部研修等に参加する。 (3) ICT 機器の活用やタブレット端末を使用して、児童生徒が主体的に取り組める授業を実践する。 (4) 外部機関との連携を強める。	(1) 他学部や他の教員の授業を参観し、研究協議を充実させる。 初任者の育成をめざし、計画的に研修実施する。 (2) 近知研などの外部研修に教員を派遣し、習得した情報や知識を校内に広く還元する。 教員が清掃研修を受け、校内での職業教育の指導に活かす。 (3) 教員がタブレット端末を活用できる環境を整備し、指導事例を共有する。(プロジェクトチームを中心に、電気通信事業者と連携) (4) 外部機関連携チーム(教頭、担当首席、該当学年主任)が関係機関等と連携する。	(1) ICT 機器やクラウドドライブサービスを活用し、いつでもどこでも授業見学ができるようにする。 初任者の授業力、資質向上に向けて研修を年 10 回以上実施する。 (2) 外部の研修に3回以上教員を派遣し、より広く還元できるようにオンデマンドにて伝達講習を実施する。 教員研修を年1回実施する。[1回] (3) タブレット端末等を活用した授業を指導事例として校内イントラネット等に集約し、累積で 100 件をめざす。 (4) 担任や学年団だけでは、対応が難しいケースは、外部機関連携チームが関係機関等と連携し、対応する。	(1) 事前に研究授業日一覧を各職員室に掲示し、フォーム作成ツールでどの授業を見学するか集約した。タブレット端末を活用してオンデマンドでも視聴可能にし、職員朝礼記録に指導案や動画をアップすることで周知を徹底した。スプレッドシートにて、80%以上が授業見学を実施と回答した。(○) 自立活動主任と連携し、初任者対象事前研修「あしたのために」と初任者対象事後座談会「きのうのために」を計 12 回実施した。(○) (2) 5つの研修に教員を派遣し、うち4つをオンデマンド形式、うち1つをサイネージに掲載し、随時視聴する形式で実施した。(○) 7月及び8月に外部講師(専門業者)を迎え実施した。(○) (3) 63 件の指導事例をクラウドサービスに保存し共有している。また研究授業動画は 41 件を共有している。シラバスに教材のリンク URL を掲載し、より活用しやすくなるように整備している。(○) (4) 小学部4名、中学部 24 名、高等部 17 名について、福祉や医療につなぐなど外部機関等との連携を図っている。(○)

府立思斉支援学校

4 小学部 中学部 中学部 高等部の 継続性のある 系統的な キャリア教育を 実践する。	(1) 小学部中学部高等部 12 年間をつなぐキャリア教育の実現をはかる。 (2) 児童生徒が地域社会で豊かに生きていく力を育てる。	(1) 学びの連続性の構築に向けて、学部間の交流学習を実施する。 卒業後の進路に向けての知識・意欲の向上を図るため、中学部高等部生徒へ進路学習会を実施する。 卒業後の進路について具体的なイメージをもつため、卒業生の体験談を聞く機会を設ける。 12 年間をつなぐ進路指導を実現するため、進路指導講話を小中学部の教員に実施する。 (2) 地域と連携し、児童生徒の自己肯定感を高める取り組みを実施する。 豊かな情操を育むために、芸術鑑賞の場を設ける。	(1) 小一中、中一高、小一高とすべての学部で交流学習を実施する。また、サイネージを活用して取り組みの成果を共有できるようにする。[7件] 中学部高等部生徒を対象に外部講師（企業担当者等）による進路学習会を実施する。[中学部1回、高等部2回] 高等部の生徒を対象に、本校卒業生による進路講話を実施する。[新規] 小学部中学部教員を対象に年1回実施する。[小学部1回、中学部1回] (2) 区役所と連携し、区の公用自転車の整備を授業として、中学部高等部で実施する。[通年実施] 芸術鑑賞会を年1回以上実施する。[1回]	(1) サイネージにて事前に昨年度の取り組みの成果を周知した。すべての学部から希望があり、今年度は8件実施した。(○) 高等部は5月及び10月に企業担当者の講話による学習会を実施した。中学部は信用金庫担当者による学習会を実施した。(○) 高等部3年生生徒及び保護者を対象に5月に実施し、10月には高等部全生徒と保護者を対象に実施した。(○) 5月に中学部教員を対象に実施し、11月に小学部教員を対象に実施した。(○) (2) 高等部1年と中学部3年で、区役所と連携して実施している。(○) 小学部6年、中学部が大阪教育大学「ハートフルコンサート 2023」に参加した。 小学部6年、中学部対象に大阪梅田ロータリークラブ主催の巡回クラシックコンサート公演事業を実施した。 小学部、中学部対象にユニバーサル公演事業を実施した。(○)
--	--	--	--	--